

# 夜の部

創作講談

## 創業103年、安川電機の原点 『安川敬一郎物語』



明治維新150年—日本が目覚めた。

世界が驚いた。熱いところが動き出した。

# 昼の部

創作講談

## 『心の歌 古賀政男』

日本人の魂に響く古賀メロデー。その原点は家族愛にあった。

「利潤は目的にあらず。公益を優先すべし。」  
 いよいよ2020年東京オリンピックへのカウントダウンが始まりました。さかのぼること半世紀余。1964年、戦後からわずか19年で奇跡の復興を世界に知らしめた東京オリンピック。その組織委員会会長を務めたのが安川電機の創設者であり、安川敬一郎の意思を継ぐ五男・第五郎でした。今も、その当時の五輪旗が藩校であった修猷館に保存されています。安川電機と言えば産業ロボット世界一として知られています。が、創設時の安川電機は創業から十七期連続赤字という困難の道のりでした。その困難をバネに変えることができたのは、父・敬一郎の「利潤は目的にあらず。公益を優先すべし」の精神であったと言われています。敬一郎が安川電機の創業者という理由がそこにあります。

### 安川家の家系図

**安川敬一郎**  
 【安川財閥創始者】  
 (1849-1934)

- ◆江戸末期、福岡藩に生まれ、藩校修猷館で学ぶ。
- ◆藩命で京都、静岡へ留学。二人の兄を失い慶應義塾退学。
- ◆安川松本家財閥の基盤、明治鉱業を設立。
- ◆八幡製鉄創設に貢献。衆議院、貴族院議員を務めた国土的実業家
- ◆私立明治専門学校（現九州工業大学）を設立。

〈次男〉**松本健次郎**  
 (1870-1963)

- ◆父敬一郎と「安川松本商店」を創設し炭鉱経営と販売、親子二人三脚体制を築く
- ◆石炭統制会会長、日本経済連盟

〈三男〉**安川清三郎**  
 (1877-1936)

(株)安川電機製作所を組織し取締役社長に就任。安川電機初代社長。

〈長男〉**安川寛**  
 (1903-1999)

(株)安川電機製作所、三代目取締役社長。

〈五男〉**安川第五郎**  
 (1886-1976)

- ◆(株)安川電機の前身である合資会社安川電機製作所を創立。
- ◆株式会社安川電機製作所、二代目取締役社長に就任。
- ◆要職を歴任し、東京オリンピック組織委員会会長。

### 特別出演



歌手俳優  
**尾形大作**

無錫市名誉市民 1988無錫市旅游局顧問 2012無錫市人民政府経済特区顧問 2015「無錫旅情」NHK紅白レコード大賞金賞受賞 CD売上130万。「吉田松陰」レコード大賞アルバム受賞 福岡県志免町出身 デビュー37年目。

### 昼・夜 共通

### 古典講談

大岡越前の名裁きで知られる白子屋政談の一席。人間ドラマに魅せられます。

## 『髪結新三』

名奉行・大岡越前守のお裁きで知られる白子家政談の一席を語ります。

特に髪結い新三は歌舞伎でも有名な「世話物」の代表と言われ、新三の小気味のいい啖呵が聞かれています。古典講談の世界を是非ご堪能ください。



### 主な作品

影を慕いて	藤山一郎	昭和6年(1931年)
丘を越えて	藤山一郎	昭和6年(1931年)
酒は涙か溜息か	藤山一郎	昭和6年(1931年)
サーカスの唄	松平晃	昭和8年(1933年)
東京ラブソング	藤山一郎	昭和11年(1936年)
人生の並木路	ティック・ミネ	昭和12年(1937年)
誰か故郷を想わざる	霧島昇	昭和15年(1940年)
南の花嫁さん	高峰三枝子	昭和18年(1943年)
湯の街エレジー	近江俊郎	昭和23年(1948年)
ゲイシャ・ワルツ	神楽坂はん子	昭和27年(1952年)
無法松の一生	村田英雄	昭和33年(1958年)
人生劇場	村田英雄	昭和35年(1960年)
東京五輪音頭	三波春夫	昭和38年(1963年)
柔	美空ひばり	昭和39年(1964年)
悲しい酒	美空ひばり	昭和41年(1966年)
ほか		

没後40年記念 永遠の古賀メロデー  
 昭和の歌謡界を代表する作曲家。福岡県大川市出身、国民栄誉賞受賞。  
 日本人の琴線に触れる涙、涙、涙、永遠の古賀メロデー、世に送り出した曲は4千曲を超える。日本作曲家協会初代会長として日本レコード大賞を創設し、音楽界の発展に尽力、昭和53年に永眠。没後、音楽家として初めての国民栄誉賞を受賞、生前も多大なる音楽文化活動の功績に対し数々の賞を受賞している。明治大学マンドリン倶楽部を創設、音楽に生き、故郷を想い、母への愛に貫かれた一生であった。



Photo: 古賀政男音楽博物館 ホームページより



明治37年(1904年) 11月18日~昭和53年(1978年)7月25日